第10回「未来座談会」

静岡県　土屋優行 副知事　　大井川鐵道㈱　前田　忍 社長　　静岡県　大須賀淑郎 副知事

「私たちは依存するのではなく、一人一人の責任のもと、自分たちで活路を見いだしていきたい」。２月13日、未来座談会の冒頭あいさつで「かわね四季の会」太田起博代表は、こう述べるとともに、「第一線で活躍される３人の話はぜいたくな時間。この座談会で何かヒントを得て持ち帰って欲しい」と期待を込めた。同会が主催する未来座談会は今回で10回目。大須賀副知事と土屋副知事、大井川鐵道の前田社長の３人が川根本町の未来を語り、町民など約110人が熱心に聞き入った。

動画 de 広報

◎土屋副知事

賀茂地域を例に挙げて地域活性化のヒントを紹介させていただきます。現在、どこの市町も職員が減少し、本来の産業振興やまちづくりに人手が足りていないという状況にあります。これをなるべく広域で連携し、共通でやることによって手間とお金を省いて、その浮いた分を本来のまちづくりに充てていくことをはじめます。また、官民連携についても申し合わせを決め、一人では力が弱いけれども、一番効率的な手法でみんな一緒になって得意分野を担うことで最大限の効果を目指していきます。

一つ元気になる話をさせていただきますと、先日「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」が公表されましたが、この川根本町の合計特殊出生率が1・57で県内順位は第14位でした。この数値が高い低いを述べるつもりはありませんが、この羅針盤で示されている出生率に影響している市町の総合力の項目で「乳幼児サポート力」「子育て基盤力」「夫婦の協働力」「家族・地域の絆力」について、いずれも県内で一番高く県平均を大きく上回っています。これは子どもさんが生まれた後に、しっかり支える力があるかというものを表したものです。この地域に仕事があり、地域のにぎわい力が増すことができさえすれば、この地域が元気になると思っています。最後に、一人一人が少しずつ力を出すことで、活性化につながるということを申し上げまして話を終わります。

◎前田社長

昨年の8月31日に社長に就任し、約5カ月が経過しました。以前は北海道の新ひだか町の破綻したホテルの再生を行いました。他にも再生に関するお声をいただきましたが、大井川鐵道の経営資源に魅力を感じましてスポンサーとして名乗りをあげました。大井川鐵道の経営資源とは何かというお話ですが、SLやモノだけでなく、沿線が持っている魅力というのが大きな決め手となりました。具体的には観光資源、人・文化、特産品の3種の独自性を生かすことで、他地域との差別化を図りたいと考えています。お客様を呼ぶ仕組みについても、拡散力の強いSNSを利用し、お客様がお客様を呼ぶ仕組みを確立することが成功する秘訣です。海外に向けての知名度向上の成功事例としましては、自治体と共に情報発信していくことが大切です。新ひだか町のホテルではタイなど海外から来日するお客様に対し、新ひだか町長に毎回あいさつをお願いし、町の魅力を発信していただくおもてなしをしていました。自分たちの身近にあり、当たり前だと思っているものが実は大きな価値があり、情報発信の仕方によっては大きな価値を生み出すものがあります。

私は全てが成功して地域のためになるとは言うつもりはありません。新ひだか町のホテルについても、長い時間をかけて失敗をくり返しながら多くのお客様に支持をいただけるようになったと思っています。ただ言えることは、企業が元気にならないと地域に貢献ができません。企業が地域に永続貢献できるようになるためには、利益を上げなくてはなりません。大井川鐵道も生まれ変わったばかりです。今後とも皆さまからアイデアをいただきながら、皆さんと一緒に地域活性のために頑張っていきたいと思います。

◎大須賀副知事

私の「目の前が明るくなる話」は今回で3回目となります。前の2回を振り返りながらまとめということで、お聞きいただければと思います。川根本町で地域おこしを考えた時、町の強みや個性を最大限伸ばしていくことが最も大事です。その強みとは豊かな自然や既にブランド力を持っている川根茶、町民の皆さんの強い団結力と健康が大きな強みだと一昨年から申し上げてきました。昨年は、お茶の価格が低いことに触れ、世界中の健康志向の高まりに注目して輸出の拡大に取り組んでいく提案や、条件が不利な地域ながら地域おこしの成功事例として島根県海士町（あまちょう）を紹介しました。

これらを振り返りながら川根本町がどんな方向を目指していけばいいのかを改めてまとめてみたいと思います。まずお茶についてですが、茶の2極化が進んでいますが、差別化を図り、川根本町は徹底的に高級茶を目指し、ブランド力を高めて欲しいと思います。その上で、今後は作ることと同等に売ることに注力していくことも大事になります。そして現在、定住人口の減少に伴い、地域の活力が損なわれていくことに対処していくために、地方創生が注目されていますが、交流人口を拡大させていくしかありません。交流人口を考えるときに、外国人観光客に注目することも必要です。来てもらえるような観光資源の構築も皆さんで知恵をしぼっていただきたいと思います。

総合的に川根本町を分析すると、条件がいいところではないかもしれません。強みである川根茶をはじめとする地域資源を最大限生かして交流人口を獲得するためには相当なエネルギーとパワーが必要になります。そのために、このままでは川根本町ダメだと町民の皆さん全員が危機感を共有することが大事で、共有することで団結力が深まります。2点目に外部、ヨソ者の力を生かしていくことが必要です。地元の人が気が付かない良さに気付き、地域資源を発見してくれる不可欠な存在です。是非、耳を傾けてください。3点目はインターネットの活用です。川根本町は高度情報基盤を整備してネット環境が整った訳ですから、これを利用しない手はありません。シェアリングビジネスなど計画的に、そして果敢にチャレンジして欲しいと思います。川根本町の皆さまの団結と大いなるチャレンジに期待をしています。

目の前が明るくなる話

2副知事と大鉄新社長がゲストということで、会場の茶茗舘には定員を超す多くの町民などが集まった。

■

▼座談会・主な質問

川根本町は人口減少が進んでいます。将来合併を目指すのか、単独で頑張っていくのか、どのように考えればいいのでしょうか。

▽土屋副知事

合併すれば全ての問題が解決する訳ではありません。今後、合併を考えるくらいなら、そのパワーをもっとまちづくりに注いで欲しいと思います。

▼座談会・主な質問

中川根だ、本川根だ言わないで、この川根路を一緒に盛り上げていくことが必要だと思っていますが、いかがお考えでしょうか。

▽土屋副知事

みんなでこの地域を頑張って良くしようという思いを一つにして、何もしないで待つのではなく、一人一人が小さな事をはじめて、大きくなっていけばいいと思いますし、隣がやるから私はやらないのではなく、一緒にやっていくことが大切です。伊豆に行って思ったことがあります。年配者が若い人の声を聞くことが大事だと感じました。この地域の将来を担う若い人がやりたいということをサポートしてあげてください。

▼座談会・主な質問

移住してきて1年半になります。この町の素晴らしいところを失わないで、人中心の経済活動であったり、つながりを大切に、みんなの幸せが増えるようなまちづくりを望みます。

▽前田社長

私たちは、鉄道業ではなく、サービス業を行っているつもりです。サービス業で重要なことは、自分たちが楽しく仕事をしていないと、お客様を笑顔にすることができません。楽しく仕事するために、社員がやりたいことを一緒に話し合い、JRさんがやらないことを私たちがやるべきだと考え、現在SLが発着する際には、駅員ばかりではなく、関連企業のスタッフ全員がホームに出てきてお客様に手を振ります。手を振ったり、手作りのボードでお見送りすることで、感動や笑顔が生まれています。今後も大井川鐵道らしさや田舎ならではのヒューマニズムを大切にしていきたいと考えています。